

特別講演 2

「高齢者のフレイル・サルコペニアと漢方薬の可能性」

東京大学大学院医学系研究科老年病学教授

小川 純人 先生

超高齢社会を迎えたわが国において健康寿命の延伸および平均寿命と健康寿命の差の短縮が課題となっている。中でも高齢者のフレイル対策は、生命予後や ADL や QOL に及ぼす影響が大きいことから重要であり、後期高齢者の質問票（15 項目）、いわゆる「フレイル健診」の利活用を含め、早期からの啓発や介入も大切である。また、フレイルの要因としてサルコペニアが挙げられ、わが国におけるサルコペニアの診断基準や診療ガイドラインについても整備、改訂が進んでいる。

これまでの知見から、フレイル・サルコペニアの発症や進展には、性ホルモンやビタミン D をはじめとする液性因子の加齢変化、栄養障害、慢性炎症など、種々の要因が関与していることが明らかになってきている。また、漢方医学ではフレイルと虚証との接点も注目され、補中益気湯や人参養栄湯をはじめとする漢方補剤の中には抗炎症効果やホルモン様作用を有する可能性が考えられている。本講演では、高齢者のフレイルやサルコペニアについて、その概念・病態および運動・栄養介入などの非薬物療法や漢方薬を含めた薬物療法による治療の可能性について紹介したい。